



英知
誠実
健康
学校だより

若鷹

尾張旭市立旭中学校
令和3年度 10月号

「One for all, All for one」

校長 浅野 謙一

8月末から続いていた緊急事態宣言もようやく9月末で解除され、学校生活における様々な制限も少しずつではありますが、緩和されてきました。しかし、引き続き感染予防策の徹底が必要であり、まだまだコロナ以前の学校生活に戻すことはできません。そんな中、雨天のため一日順延となりましたが、秋晴れの10月14日(木)に体育大会が実施されました。残念ながら昨年に引き続き競技数を減らすなど、縮小した形になりましたが、「全員リレー」「大縄飛び」のクラスの団結力を高めるための競技に全力で取り組む姿が見られました。

開会式の挨拶で「One for all, All for one」という言葉を紹介しました。ラグビー競技でよく使われる有名な言葉です。自分もそうでしたが、この言葉の意味は「一人はみんなのために、みんなは一人のために」だと理解していました。しかし、この言葉の本当の意味は、「**一人はみんなのために、みんなは一つの目的のために**」だそうです。一つの目的、つまり目指すゴールのために全員が役割をしっかりと果たすのが重要だということなのです。「ミスはいつでも起こる」「ミスが起きた時にそれを仲間が全力でフォローする」「ミスは起きるものなので、ミスを責めるのではなく、逆にフォローしていなかった事を責める」つまり、「誰が優秀か」ではなく、それぞれの役割をきちんと果たしながら、チームが一つの目的に向かって機能し、お互いリスペクトし合い、フォローしていくことが大切だということです。

体育大会では、どのクラスもまさにこの「One for all, All for one」の精神で取り組んでおり、生徒一人一人が、様々な場面で活躍する姿を目にすることができました。さあ、次は10月28日(木)の文化発表会です。文化発表会も「One for all, All for one」の精神で取り組み、クラスで決めた合唱曲に想いを込めて、全員で心一つにして歌う姿を期待しています。

最後に金子みすずさんの詩「わたしと小鳥と鈴と」を紹介します。

わたしと小鳥と鈴と

わたしが両手をひろげても、お空はちっとも飛べないが、飛べる小鳥はわたしのよう、地面(じべた)をはやくは走れない。

わたしがからだをゆすっても、きれいな音は出ないけど、あの鳴る鈴はわたしのよう、たくさんうたは知らないよ。

鈴と、小鳥と、それからわたし、みんなちがって、みんないい。

クラスでがんばった体育大会

「宣誓、私達は今日、楽しみにしていた体育大会を迎えることができました。コロナ禍の中、仲間と一緒に練習できることが当たり前ではなくなりました。仲間と同じ時間を過ごし、励ましあい、喜び、時には悔しい思いをする。そんな時間の大切さを知ることができました。体育大会を開催して下さったことを、先生、家族に感謝し、全力で取り組むことを誓います」



2年生の小森さんの選手宣誓から始まった体育大会、全員リレーと大縄跳び、種目数は減りましたが、どちらもクラス全員で協力して競う競技です。緊急事態宣言の影響で練習期間が短縮されましたが、昼放課や帰りの練習時間では、熱心に練習をしたり作戦を立てたり協力して取り組む姿が見られました。閉会式後、どのクラスの生徒も満足げな顔をしているのが印象的でした。今回培ったクラスの団結力を、この後の文化発表会でも発揮してくれることと期待しています。

旭中生のキラリ

10月のある日の朝に、地域の方が以下のような出来事をお電話で伝えてくださいました。

朝通勤途中に、尾張旭駅の東にある踏切で、おばあちゃんが踏み切りを渡りきる途中で遮断機が降りてしまいました。どうしようと思っていると、そこに登校途中の旭中中学校の女子生徒二人が気づき、躊躇せず遮断機の竿をあげ、立ち往生していたおばあちゃんを踏切の外へ連れ出してくれたそうです。

二人が勇気を振り絞って行動したことで、大惨事にもなりかねない状況は避けられました。冷静で勇気ある行動は大変素晴らしかったと思います。